

INCLUSION FOR INNOVATION

バリアバリュー

それぞれが直面する、トラウマやコンプレックス、障害は克服すべきものでもなければ、取り除くべきものでもありません。今まで「バリア」として捉えていたことも、考え方や周囲の向き合い方次第で、「強み」や「価値」に置き換えることができます。バリア(障害) をバリュー(価値)に変え、私たちは社会を変革します。



社名 | 株式会社ミライロ

設立 | 2010年6月

代表 | 垣内 俊哉

事業 | ①法人や自治体に向けたユニバーサルデザインのソリューション提供
②障害者に向けたデジタルプラットフォーム「ミライロ ID」の運営

拠点 | 大阪本社（大阪市淀川区西中島3-8-15 EPO SHINOSAKA BUILDING 8F）
東京支社（東京都品川区東五反田5-26-5 ニッセイ五反田駅前ビル5F）
福岡支店（福岡県福岡市博多区博多駅東2-5-19 サンライフ第3ビル6F）

資本金 | 3億960万円（資本準備金含む）

ハードを変える価値



あなたの声がミライをつくる

ミライ0!リサーチ

障害のある当事者モニターと共に、
製品やサービス改善の調査を展開



ハートは変えられる



ユニバーサルマナー検定

自分とは違う誰かの視点に立ち、行動する人を育てる



DXを通じた外出促進

障害者手帳を、あなたのスマホへ。

MIRAIRO ID

障害がある人の移動や生活をもっと

便利に、もっと自由に。



App Store
からダウンロード



Google Play
で手に入れよう



障害者手帳における課題



障害者

障害者手帳を常に
持ち歩かなければならない

紛失ならびに個人情報の
漏洩リスクがある。

障害者

個人情報事業者へ
都度開示することになる

情報開示における
心理的負担を有する。

事業者

フォーマットが多岐に
わたる（283種類）

複製されやすく、チェック
する際に時間がかかる。

デジタル障害者手帳「ミライロID」

DXによる事業者の負担軽減で範囲が拡大される合理的配慮に対応

障害者手帳をスマートフォンに

- スマホひとつで完結
- 必要な情報だけ表示
- いつでも更新が可能



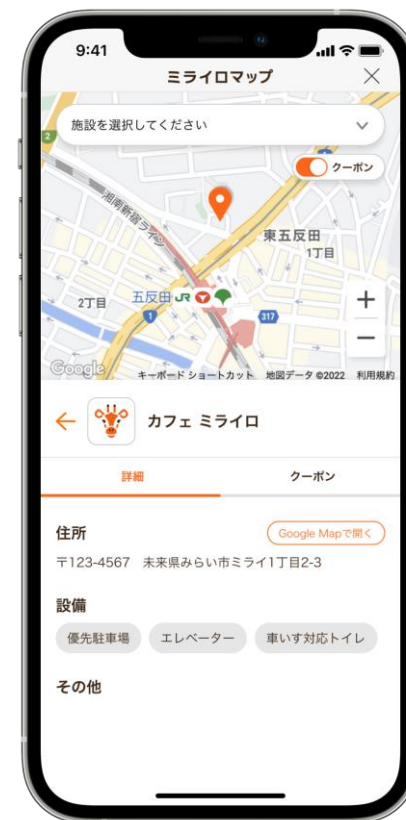
ミライロIDの機能



所有する障害者手帳の登録



使用する福祉機器等の登録



バリアフリー情報の確認

ミライロIDの機能



お得な電子クーポンの利用



障害者割引チケットの購入



身体特性に応じた情報の取得

ミライロIDとマイナポータルが連携



障害者手帳を、あなたのスマホへ。

MIRAIRO ID

01 あらゆる情報が一元化される

02 マイナポータルの普及に繋がる



情報の信頼性向上へ

デジタル社会推進賞(デジタル大臣表彰)を受賞



2021年 デジタル 社会推進賞



株式会社ミライロ

デジタル障害者手帳「ミライロID」

障害者手帳を持ち歩くことによる紛失・個人情報の漏洩リスクや、自治体ごとにフォーマットがバラバラのため事業者による確認が負担といった課題に対して、スマホ一つで本人確認ができる障害者手帳アプリ「ミライロID」をリリース。3,000以上の店舗やレジャー施設等で利用でき、障害がある人の移動や生活を自由で便利なものになっている。

人に優しいデジタル化に貢献

2022年度グッドデザイン賞を受賞



審査委員会により特に高い評価を得た「グッドデザイン・ベスト100」に加え、特別賞「グッドフォーカス賞[新ビジネスデザイン]」を受賞

■グッドデザイン賞 審査委員による評価コメント

障害者手帳をスマートフォン上でデジタル化することで、これまで障害当事者にとっても、サービス提供事業者にとっても、負担となっていた手帳の確認の手間を省くことができるようになった。紛失劣化のリスクもなく、個人情報を開示することなくさまざまなサービスを受けられる点はデジタルならではの利点であり、マイナポータルAPI民間活用第一号としても素晴らしい前例となるだろう。こうした取り組みが障害者にポジティブな行動変容を促すことはもちろん、事業としても着実に利用者や対応事業者を増やしており、今後も社会性や公共性をもった持続的な事業として展開されていくことが期待される。

持続的な事業としての評価を獲得

バリアバリューとDXで
世界に誇れる日本へ



OSAKA

大阪市淀川区西中島3-8-15 EPO SHINOSAKA BUILDING 8F | 東京都品川区東五反田5-26-5 ニッセイ五反田駅前ビル5F | 福岡県福岡市博多区博多駅東2-5-19 サンライフ第3ビル6F

TOKYO

FUKUOKA

ミライロでは「障害者」と表記しています。「障がい者」と表記すると、視覚障害のある方が利用するスクリーン・リーダー（コンピュータの画面読み上げソフトウェア）では「さわりがいいしゃ」と読み上げられてしまう場合があります。 「障害は人ではなく環境にある」という考えのもと、漢字の表記のみにとらわれず、社会における「障害」と向き合っていくことを目指します。